

P1-022

特別支援学校における歯科保健活動の課題

塚田 亜優美¹、竹田 一則²

¹筑波大学 人間総合科学研究科、

²筑波大学 人間系

【目的】

近年、国全体としての齲蝕有病状況は改善しているものの、その解消には至っていない。そのため、学校における歯科保健活動の推進を図る必要があり、平成19年度からは「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」(以下、推進事業)を学校歯科医師会が実施するなど、多様な取り組みが行われている。歯科保健活動は、特別な支援を要する子どもにとっても重要な活動であるが、様々な要因により困難な場面が多いと推察される。そこで、本研究では、学校における児童生徒の歯科保健活動について調査し、特別支援学校を中心に歯科保健活動の実態と課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】

全国の学校(特別支援学校、小学校、中学校、高等学校)に勤務する養護教諭200名を対象とした。筑波大学人間系研究倫理委員会の審査・承認を得て2016年8月から10月に、郵送により質問紙の配布・回収を実施した(無記名自記式)。調査項目は、回答者の属性・現在の勤務校、歯科保健活動に関する質問:4項目、学校での歯科保健活動に関する質問:8項目、推進事業に関する質問:4項目とした。分析方法は、選択式質問項目はExcel2010およびJMP9.0(SAS Institute, Japan)を使用し単純集計を行い、自由記述の項目は得られた情報を整理した。

【結果】

200校に配布し、45校より返送があった(回収率22.5%)。歯科保健活動の「実施の負担が大きかった」という理由としては、時間に関する記述が多く、「実施の負担が大きかった」と思わない理由としては、学校歯科医や教員からの協力が得られていることなどの記述がみられた。また、特別支援学校では歯科保健活動において問題点や課題があると回答した学校が多かった。具体的には、保護者や家庭との関わり、時間の確保、継続の必要性など、小学校や中学校において多く述べられていた内容に加え、特別支援学校では個別の課題が幅広く、一律の指導では対応できないことや集団指導が難しいことなどが挙げられていた。

【考察】

歯科保健活動の実施において、特別支援学校の養護教諭は、歯科保健活動の問題点や課題を多く認識していたが、歯科専門職の介入や教員などの周囲の協力や理解が得られれば、取り組みの負担が軽減する可能性が示唆された。そのため、養護教諭、歯科専門職、保護者、教職員などが互いに協力し合うことで様々な課題を補い、児童生徒の歯・口の健康づくりの推進を図っていくことが望まれる。